

## 第4学年 国語科学習指導案

### 1 単元名 興味をもったことを紹介しよう ～ウミガメの命をつなぐ～

#### 2 単元の目標

- 生き物の命をつなぐ取り組みや秘密を読み取ろうとしたり、リーフレットに書き表そうとしたりする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 紹介することの中心となる語や文をとらえて、文章を引用しながら要約することができる。  
(読む能力)
- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

#### 3 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
生き物の命をつなぐ取り組みや秘密を読み取ろうとしたり、リーフレットに書き表そうとしたりしている。	紹介することの中心となる語や文をとらえて文章を引用しながら要約している。	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。

#### 4 単元について

本単元では、「C読むこと」の言語活動例「ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと」から、選んだ情報を要約してリーフレットにまとめ、紹介する活動を単元を貫く言語活動として位置付ける。

本教材「ウミガメの命をつなぐ」は、これまでの説明文のように大きな問いが設定され、それを解明し、結論や主張にたどり着くという形式とは異なる。1段落目に問いが設けられるが、2段落目で端的に答えが示される。その後は、名古屋港水族館のウミガメを保護するための3つの研究経過と成果が述べられている。最終段落は水族館の役割に目を向けた筆者の見解が書かれている。写真や表、図が数多く使われており、内容理解を助け、文章と関係付けながら読むことに適した教材である。

4年生前期の教材文「花を見つける手がかり」では、事実と結論や実験と実験のつながりを段落相互の関係をおさえて読む学習を行った。そこで、本単元では引き続き、段落相互の関係をおさえながら読むこと、そして自分が知らせたいことを中心に要約して紹介することを目標とする。また、リーフレットを作成するという活動を取り入れることで、限られたスペースに書くために、内容を簡潔に表現する必然性を児童にもたせることができると考える。このリーフレット作りを通して、必要な情報を選択し中心となる語や文に気を付けて要約する力を育てたい。

第1次では、教師が作った見本のリーフレットを提示し、研究員になりきって名古屋港水族館の取り組みやウミガメについて紹介するリーフレットを作るという学習のゴールを示す。その際、2つのリーフレットの文章量を比較させ、要約の意味やよさに触れる。

第2次では、教材文「ウミガメの命をつなぐ」を読んで、題名を予想することで文章の話題の中心に目を向けさせる。そして、命をつなぐ3つの取り組みについて、段落相互の関係をおさえて読み、文章の要点や細かい点に注意しながら要約する。

第3次では、水族館の3つの取り組みのほかに、自分が紹介したいテーマについて本文から必要な情報を読み取り、要約した文を挿入しリーフレットを完成させる。友達と読み合い、友達の着眼点や要約の仕方の良いところを見つけ、伝え合う活動を行う。

### (1) 言語活動を通して身に付けさせたい力

本単元は、第3学年及び第4学年「C読むこと」の(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」、(1)エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を受けて設定している。

そこで本単元では、「名古屋港水族館の取り組みやウミガメについて紹介するリーフレットを作る」という学習のゴールに向けて、研究の内容と成果、さらなる課題を整理して、段落相互の関係をおさえて読む力を高めたい。そのために、文相互の関係とともに段落相互の関係を端的に示す手がかりとして指示語や接続語に着目させる。また、大事な文章を「選ぶ」、必要のない部分を「削る」、残った部分を「つなぐ」という作業を通して、文章を要約する力を身に付けさせたい。

### (2) 本単元を支える日常的な言語活動

#### ①日直のスピーチ

朝の会に日直がスピーチをする。スピーチは、テーマが「〇〇な出来事」のときには、「いつ、どこで、だれが、何をした、何を思った、今度したいこと」といった柱立てで、テーマが「好きな〇〇」のときには、「好きなもの、理由、きっかけ、おすすめ」といった柱立てで話すこととしている。本単元で要約文をつくる学習に入る際には、自分の伝えたいことを柱に沿って端的にまとめて話すというスピーチを想起させることで、テーマに合わせて必要な情報を選ぶ視点をもてばよいことに気付かせたい。

#### ②短文チャレンジ

週に1回、朝学習の時間に「短文チャレンジ」の時間を設け、学年に応じて俳句形式(17音)、短歌形式(31音)、短作文(3~5行)で季節や行事について短い文で書くという取り組みをしている。少ない音数の中で伝えたいことを表現するには、キーワードとなる言葉を考えること、違う言葉で言い換えることなどが必要である。継続して短文チャレンジに取り組むことで伝えたい内容を絞ること、言葉を取捨選択して書くことなど本単元の学習にもつながる力が身に付くと考えられる。

## 5 児童の実態(略)

6 単元の指導計画（全11時間）

次	時	学習活動		○指導や支援の手立て ◇評価規準（評価方法）
1	1	◎教師が作成したリーフレットを読んでリーフレットに興味をもつ。  ◎学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 ・ 研究員になりきって、水族館の取り組みやウミガメについて紹介するリーフレットにまとめることを知る。	「ウミガメの命をつなぐ」リーフレットを作る	○2つのリーフレットの文章量を比較させ、要約の意味やよさをおさえる。  ○計画表を掲示し、学習の流れが視覚的にわかるようにする。  ◇リーフレットに載せる内容や要約の意味を知り、単元全体の見通しをもち、進んで学習に取り組もうとしている。 <b>【関心・意欲・態度】</b> （発言）
2	2	◎「ウミガメの命をつなぐ」の全文を読み、感想を交流する。  ◎題名について話し合う。		○興味をもったところ、感心したところ、疑問などの感想の視点を示す。  ○題名を隠した状態で教材文を読み、どのようなことが書かれているか意識させ、話題の中心に目を向けさせる。  ◇興味をもった点を意識しながら本文を読んだり、おおまかな内容を読み取って題名を考えたりしている。 <b>【読む】</b> （発言・ノート）
	3	◎名古屋港水族館で生まれて放流されたウミガメのことが書かれている段落に着目し、大まかな構成を知る。		○名古屋港水族館で生まれて放流された「ウミガメ」と一般的な「ウミガメ」を区別するために放流されたウミガメに名前を付ける。  ◇放流されたウミガメについて書かれている段落に着目して読んでいる。 <b>【読む】</b> （発言・ノート）
	4	◎名古屋港水族館の3つの研究について研究内容と結果を読み取り、それぞれの意味段落に小見出しをつける。		○研究について、内容と結果が書かれている段落に着目させる。形式段落が内容、方法や工夫、結果で構成されていることを視覚的にとらえやすいように板書する。  ◇研究内容を読み取り、端的にまとめている。 <b>【読む】</b> （発言・ノート）  ◇指示語や接続語のはたらきを理解している。 <b>【言語に関する知識・理解・技能】</b> （発言）

5 6 (本時) 7	◎各研究の段落の中からキーワードや大事な文を見つけ、それぞれの研究の要約文をつくる。 5…人工の砂浜での孵化実験 6…タグをつけた放流実験 7…発信機をつけた放流実験	ウミガメの命をつなぐリーフレットを作ろう	○全文シートからキーワードや大事な文を選び、不必要な文や言葉を削る。接続詞を入れたり、言い換えたりして文をつなぐという手順に沿って要約させる。 ◇研究について、文章の要点に注意して要約している。【読む】(ワークシート)
	8 ◎新たに生まれた課題と取り組みについてまとめる。  ◎筆者の主張を要約する。		○①②段落との繋がりがとらえやすいように、矢印で結ぶ。  ○筆者が伝えたいことは名古屋港水族館のウミガメの話だけではないことを確認する。 ◇段落相互の関係を考えながら、筆者の主張につて要約している。 【読む】(発言・ワークシート)
	3 9 10 ◎付け加えたいテーマについて要約文を書き、リーフレットを完成させる。		○興味をもったこと、初めて知ったこと、感心したことなど初発の感想を想起させ、リーフレットに付け加えて紹介したいテーマを選ばせる。 ◇文章の要点に注意して要約している。 【読む】(リーフレット)
11	◎完成したリーフレットを友達と読み合う。	○友達の着眼点や要約の仕方の良いところを見つけ、伝え合う活動を行う。 ◇友達のリーフレットの良いところや感じ方の違いに気付いている。 【関心・意欲・態度】(観察・発言)	

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

研究について、中心となる語や文をとらえて要約することができる。【読む能力】

(2) 本時の学習活動（1 1 時間扱いの6 時間目）

タグをつけた放流実験について読み取り、大事な文を選んで要約文を書く。

(3) 本時の展開

学習活動	○指導や支援の手立て ◇評価規準（評価方法）
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。</p>	<p>○学習計画表をもとに、前時までの学習を想起させ、本時ではタグをつけた放流実験について要約文を書くことを確認する。</p>
<p>タグをつけた放流実験について要約文を書こう。</p>	
<p>2 ⑩～⑫段落を音読し、要約文のキーワードとなる言葉を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放流</li> <li>・タグ</li> </ul>	<p>○中心となる語や文を考えながら音読させる。</p>
<p>3 全文シートから大事な文を選び、線を引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的はウミガメの行動を明らかにするためだ。</li> <li>・子ガメを海に放流する実験だ。</li> <li>・アメリカまで行って、また日本に戻ってくるのだ。</li> </ul>	<p>○大事な文を選ぶ視点（目的、内容、結果）を確認する。</p> <p>〈選ばせたい文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミガメの行動を明らかにするためです。</li> <li>・また、これより前の・・・海に放流する実験にも取り組みました。</li> <li>・北太平洋に出たウミガメは、・・・日本にもどってくると考えられました。</li> </ul>
<p>4 選んだ文について選んだ理由や迷った点を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～ためです。」と書いてあるから目的の文章です。</li> <li>・目的、内容、結果の文以外にキーワードの文章も必要だ。</li> </ul>	<p>○大事な文を選ぶ視点にかえて考えさせる。</p> <p>○タグに関する文章が出なかった場合は、3 目目の研究との違いに触れ、今回の実験のキーワードに着目させる。</p>
<p>5 選んだ文の余分な部分を削ったり、言い換えたりして文をつなぎ、ワークシートに下書きする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この言葉は言い換えられるかな。</li> <li>・本文では、目的の文章が後ろにあるけど、順番を入れ替えようかな。</li> </ul>	<p>○削るポイントを確認する。</p> <p>○つなぐポイントを確認する。</p> <p>◇選んだ中心文をつないで要約文を書いている。 【読む能力】（ワークシート）</p>
<p>6 下書きをペアで読み合い、キーワードや大事な文が入った文章になっているか確認する。</p>	<p>○選んだ文が同じでも、削った部分や文のつなぎ方が違うことに気付かせる。</p>
<p>7 リーフレットに要約文を書く。</p>	<p>○文章がつながっているか、実験についての要約文になっているか読み返させる。</p>

(4) 板書計画

ウミガメの命をつなぐ

松田 乾

④

タグをつけた放流実験について要約文を書こう。

キーワード

タグ 放流

⑩また、これより前の一九九三（平成五）年からは、近くの海岸で採取したたまごからかえした子ガメを、海に放流する実験にも取り組みました。ウミガメの行動を明らかにするためです。

⑪当時は、子ガメを放流する時、目印となる「タグ」をつけていました。成長したウミガメは、日本の海岸に、たまごを産みにもどってきます。タグをつけていれば、もどってきたウミガメが、どこで放流されたのかがわかります。長崎の海でつかまえられたウミガメも、タグから、名古屋港水族館によって放流されたものとわかったのです。

⑫調査が積み重なるにつれ、日本で放流したウミガメが、アメリカの海岸で見つかることもありました。北太平洋に出たウミガメは、東に流れる海流に乗って成長しながらアメリカまで行き、そこから、西に流れる海流に乗って、日本にもどってくると考えられました。

○大事な文に線を引く。

目的（何のためにしたか）

内容（どのような実験）

結果（実験からわかったこと）

